うぢ拾遺物語

巻ひ～ふ

上之一

十六

特別
へ12
4327
16

へ12
説 4327
恵 16

昭和廿四年四月一日寄
高田早苗氏

友中納言仲忠ノ

中納言ニナレリ

ハ ノ十三セフ

右

凡は納言の忠つねさうれ
てをるれ邪尚いうけどさ
いうりり世のまるれと
背うりあれてこうりと
つとくれ。とうれやのみと
と。秋ほうくうあてくぬ方うりをくむとれ
て。ちも月ちうりよむりちどさ人とうれとと
みくかってみ人いこけれかとい野のうれやうて。
人の家もみくどうほて面うりむうりちむじてん
日ちり。めうりをたうくてうてあるとこめれ紀
ちをみ人みうくれとみよ母ちうり。いうめうさ

清氏

御時

巻十一

へ12
4327
16

昭和廿四年四月一日寄
高田早苗氏

非賣品

藤中納言の妻つきそうれいと。装束さらしよせずと
てあるれ別当いうけどさくあるとん給わしてり。ち
いさうりく世のまるれと。京極みとゆりく言れい。
背ちうゆれてこそうりもみ給けり面りてあ
ひとくれ。とうれやのみとれよりたくなりよろ
と。我ほくうゆ方てくぬ方うりをくむとれ
て。ちも用ちうよむりちどさ人とうれとと
みくかりてみ給人いこけれりい野なうれやうて。
人の家もみくどさ面りむうくりちじてん
日ちれ。めうりをたうくてうてあるとこめれ紀
ちをみ人みうくれとみよ母ちさうりいうめうこさ

ふにむ　一本前ト

くるあり。中納言よしむねうこんのしまうりかうく
めうりてみるへいことはこれくはこの花のかうりもみ
えんけうもなりんこのうれくちみとろ結
めうりてみく。ばくちなるとうちくくうりてみ
結へえくらくれめくうりんへれどねうずらをあ
ヌ。れそうくとみつくるくらうくみたまへい
ふなくいうめくさとうけさうりそのろ上ぶいうん
をはどねをまうりうけてあんくさうりそのあん
のむをひえうりこ治ぶつれぬくろくるりくら
つけうり。中納言みる結へゆどうさてこれいあみ
くるくるむ。前ぶいろうう樂れあるうりけ結

と。一まのあくみくそれ結うくねうむるうとく
ぶくのなうみをちうるをけうくうりのをぶ
れのけう結むとゆうんくうれかくうり
くれすくうりみくゆくをくどくるゆくうくらう
ぶゆうくるくるくりうくうくせるく
とくくるみくくよくそみどんくいか結ま
けうくうくせ結へれゆくのんくうくうつ
うくかくと。まけゆ結んせよ。うくれのかくねと
くう結るむ河あるとやくいりくむくそくいあ
やくくうくてくうくうて。くうくう結くうくそくれう
うりやう。これむくくくいみくくくうんくてけうくう。

こゝろこゝろ殿あまたりみそこせよ八ぶこゝろこゝろぬ月
とみるゆ。くわろのくゆ。それゆ。いぶ音ひとり
こをりろこゝろこゝろこゝろこゝろ人の御殿
あんあるこゝ。そのこゝをえまちえゆくゝ。せゆ
てのちよそれこゝろいまこゝろこゝ。こゝこの殿
紙ひこゝこゝよつこゝてこみゆこゝわこゝ。みむ
をめ一人るゆりちまつこゝ。それゆをめれちのさ
くいまこゝこゝ。ようこゝふこゝぬあんやう
くこゝふるゆこゝこゝ。それゆこゝやうかく
をこゝくこゝいみるこゝもちろこゝさこゝ。やまいあ
ゆりのいなくこゝりれいこゝをれもこゝくこゝこゝ

うはこゝやこゝれこゝちのこゝいめこゝりてこゝけこゝまりし。
そのひこゝを見こゝこゝぎけよこゝなこゝを結こゝしこゝは。みこ
ゝ紙こゝて人かよつこゝくあるこゝこゝ天皇みこ
こゝやこゝれのこゝろこゝ。こゝこゝのゆこゝのいゆけた
くこゝこゝちめこゝりてこゝこゝを見ゆ結こゝ。
こゝこゝあこゝこゝりこゝ。こゝ結こゝこゝれ結みこゝは。
あみむこゝを見こゝわれこゝこゝすこゝりめれ。こゝし
ゝ。こゝれ殿いこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝ。こゝ一三年ゆ。こゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝのこゝれこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝれこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

のぶやうとてくれんくりかねどおなじ
人をもみしかばてむまのりとうとうてゆく
弦 おうちうつくしうあうりするやうまんかくれ
そうにあるりるむ百さうりなりかはまくことれ
かれたれのとこてまうかりうりうみみ結
奉 うぬすうとうたやうとうたまのかとこれみとかへう
えいみしうりみやうとんとくはやうむしとく
きうものきうてきはれとえきうてきあへすまま
ものかたりとやます。

中納言(仲忠)いとうくしうこれうるとみたまふ
よそむいいくあるそと、そそせ給へいこれう
とあけむくやう給つ、人のあくすると、
れいるとあけさうくむとうたてみれ、あせうとみ
つう月をくうくはーかとうみるくみ給よ
さうせーくのうくうはとれのようとおうり
つういうたうのはるとやせていとやそう
さうとうれ、よはくうくやあるとみはれそは
そひとうねめうはるくはるくたまいは
このうれうくうくみあるやはうよはてこれうく
此地
ようさのくすうはうはれうくそはう

屋

のめうりよあうそのはれくうくひをそさせて
さうくくくくうりはあまいはせはおれいはせうり
うらぬかうりくくうくうてさあやういわりはれそ
くとをうくゆうちまくくうとはうみーはれう
はううてくうくはくあくはくうくすうう
はそそれあはれはのをくはのうむさこれあうう
りりのようれくくはれはうふとうくはさくはん
させくさうくはいはあはうりあまい殿のはいて
あをくうりうはうはいはくたうはんやう
じるくくくくはとはやうするかくよ中納言
こせむいくはゆくはうはけくはつはくはるとひ

仲忠

きわくゆきうて、こゝのうゝゝゝ勞みどもゝゝゝ
とせゝ樂ゆく、うゞゝゝ紅ゝけ種いあく色ゝたゝゝゝ
をゝつゝゝゝをあけゝけゝ勞ゆゝゝよあゝゝ。そこに
二三日ゆゝくれゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
あけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ふいしきはすとむよつみくめてこれひもして
はへつくくみてよはみつくあり・それをうちむ
みうのつのうらへはすすくうれをれうゆく
のうたれのちうつうておくまつ
さりのはをさうふちめふりくろく
とうはうふをとりはくあをつうやうよさう
てはくの殿れへさしてうりはぬ・三条よかう
て・かれてさよはうとはうやうりはで・これをれり
うくとみはへいとしくあをうとれたうも
のはうり・みともいうふをいたりうちうよ
たへのみしらうけりみふれうそうりく

唐紙

清氏

ちりあみたひやうしふをへさうすうふをうちみ
うくむへのまいのうふいとうふくて・はをうと・

師

相

胎

清氏

のまはいまくうむとうそはをれ・中納言い
とうちくりあり・はけうへなるをけまは・はをて

仲忠

やうこそあうけわらわをうこうりうはをい・
いうあうせうはは・いまでいあうとあまはしやと
みうのはくをるをうちふくのをうをうとの
さけへうをいひうのけあつけつをへく

添イ

北条

よみるのはへあつけつくはうをせはやけはいうち
二三百人のまうをのうをてそのうをれうちよつうをはうら

夢

一ノ宮ハ仲忠トキコエ

今十四ナハム一内親王ナルヲシ世給ふ。そく（清俊）ゆかた（香）方よりもの（物）ゆめ（夢）をとり給へ。

これはそうれいのうちもいとよつねうこ（仲忠室）給ふんふこ

とりえうあるいとうり出くみ給。この殿造り給ふ。

それめでたしよ。くらふ人給ふこと。とみ給へと

て。みな家（屋）つくりてうこと（事）めでうれいでこうこ

しあはせるよい。海とちろよりてあのうねと。

いとゆかりくたまふ。姫（侍従）ぎやうそどもにうあけうら

和うぶこと紙。内うちうてこみむうとく。

うにはうち物給へ（ものたまへ）のゆうちうはむし。

二条（ぢう）ゆかりうちうこと（大路）ゆうちうこと院（ゐん）ある。

（後院）

いまきやたてといの一本ニハ紺極殿トス

紺本

それを中納言給てたまふてこの給。この家（かい）のうち

のうち（仲忠）而ゆうちうこと。まうこうの家（かい）ともなる

ゆうちうれを。ふ而みてうちうせれこうあうくされ

うこむくるこ。あうこうれむうり。よんへうなるうれ

みこうりうこもよこうふぐひこつ。こう也給へうち（千）

くこうぐこむい。ゆへうむしてなうふそれこるみま。（従子）

うれうりいちいこうれ而あり。それい一のみこみと。いま

りのせむしやこの給。たまへぐ。中納言ふうりしく

給うりたまふて。ゆうくたまふのあ。みぐ女れのこうみ

うりうこと給。女（いま）みこうこうちいこうりあぐこ而ゆうくこせ

く。あいつこはゆ。りのをむ。みぐこうふ給うてうる

のうこひ・ひとりのようひるとつくるにてとうい
てさせたるこ・ちこくぬ方よ一ちうえめもをり給へた・
これはそうれのうもいよのつねうこ給あんふこ
とりえうあるいとり出くみ給・この殿ほく思い
それめぐりよ・くくふさうへ給ふこ・ちみ給へと
て・みる家つくりてうこ・ひてめ・うれいぞこうち
しあはるいい海ともちろよ・てあのうねるこ
いとゆりくたまふ・極殿・ぐうやうそどれうこあけうち
和うぶこ紙・角うちりて・こわむうこく・
うこはうこ勢給へ・ちえの世月ちうハ月むう・
二条ゆりうこりいうこ・のうくゆうちうこ給あるこ・

いまやたてといの一本ぞ・ハ・京極殿トス
紺本

清氏
仲忠室
後院
大路

それを中納言給てたまふこての給・この家くく
のうこ而ちうこ・まうこうこ・ちの家ちうもなる
ちうこ・ちれを・ふ而みてう・ちうせれこうゆうくされ
うこむうくる・ちうこれむうう・ようへうなうれ
みこうりうこもようこ・ちうぶこのこつ・こう世給へちう
くこうぶうこむい・ちうへうむうこてなうそれこるみま・
うれうりいうこ・ちれ而あり・それ一のみこみこ・いま
りのせむせこの給こく・たまへぐ・中納言ちうこ
給うりたまふこて・ほうこくたまふのあ・みぐ女れのうこみ
うりうこて給女みこ・ちうこ・ちうりめぐこ而ぶうこ・せ
こ・ちいつこはく・うりのをむぐこ・ちあこ給へてうる

そのむ月ごろ、一のえそろみ給ぬ。中納言
みちつゝみ、さんぎ、うみ、仲忠室、つゝ、そうおく、仲忠
あつく、女みこ、みこ、みこもこそあまと、ゆかりてむ
まろ、みこ、ちうく、ちうく、ちうくなりて、人、ものを、
まつり、そろぬりのこ、それ、ふ、あつ、いくし給ま、め
見このいとこ、ものまいりをはし、侍まへうて、ふつ、
といふ、ちうみく、ほ、れなる、そのまいりのまいりてまつり、ね
給、くてそのこ、いこ、ちうの、給いそ、ひ、いえ
ものみつ、ちうの、ものぐ、ものむ、とし給、く、ものほ
どよ、ちうみ給べ、きこ、ちうくるるぬまい、女御、わよご、乃君、きみ
うへ、よ、こ、ちうく給、一のえみ、こ、ちうくし給べ、きやく

ちうくなりあるをまうて給うむ、人、いう、ものち、ち
みや、女四の宮十月ごろ、ものち、ものみ、ものん、ちうく、人、ぶ
ちうみこそなるれ、ものみ、人をいうねこ、ちうこ、ちう
みこそそれいうあるむ、女四のるふは、ふれあそむ
まちうなりさめ、せこ、この、ない給なりを、れ、ものく
まふ、ほ、ものそ、ふ、ふ、ふ、これ、みち、ものひ、こ、くみぬ、ふい
ぐた、ほ、なりよ、こ、ものむ、の人、とは、きあ、ちひ、こ、ものむ
みは、こ、ふめけ、ものう、いみ、こ、ちう、を、ものう、人、いう
くみ、ものち、ん、海、こ、とな、ちう、や、れ、ものは給、きう、ご
ちうい、ちう、こ、ちう、ふ、拍、月、ものく、あ、ちう給、ものう、ものめ、ちう、ものう
ものく、ふ、ものく給、ものう、人、こ、こ、れ、みこ、ふ、女侍、ものう

みてゐひて、それもこゝにゐやうに給はるなり。あるこゝ
ゐけらるゝこと、そのいてるむうゐる紙とこゝろさう
せ、をんなこゝにゐしこそこゝろあく所なれい、このみこ
さうらも、わりけれいゐすう、さうべきこゝろうこゝて、
ゐやうゐみこゝをあゝこゝにをたゝうゐる
あべゐあいそこゝうをけゝういあゝうゝとの給へい
まして給ぬ、こゝて中納言殿乃ゐて給ゝうまう。
女御さみるうれゐこゝうゝゐ給てみまう給へく。
いゝくゝそゐゐやせ給よけゝうゐのさゝうゝうゝゐさ
うゝさゝし給ものをとゝて、みまう給ゝ、ゐりゝうく
さうゝなゝうさゝうゝの朔家よゐれゐゐゝうゝいあひ

めてゐれゝうゝゐゝうゝけゝうゝうゝて、落ゐく給り
うゝをてゝたまひうゝゐゝよみて給ゝ、ゐそいゐゐゝうゝゐ
なゝうゝ、ゐゐやのうゝゐゝうゝさゐゐゐて、ひとゝうゝゐなり
てゝ、ゐけうゝそゝうゝよゝゝうゝうゝて、ゐゐゐゝうゝてゝゐゝ
のゐゝうけゝうゝゝうゝゝあゐやゐてゝうゝどゝゐ、ゝうゝゐゐゐ
うゝゝて、殿ゐゐゝうけゝ給ゝ、ゐゝ月ゝうゝうゝ給ゝ、ゐゝ
ゐゝ給ゝゝゐゝ、ゐゝ日ゝゝで、ゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝゐゝ
給ゝうゝいゐゝうゝゝゝ

うしの車いつくしてまつりまつり。
中納言はたゝ〜なりて。えのおつまます御帳
のうらへいれをり給。えをとゝり給つゝそれ
はたゝねして。こゝろゝ。女御の云いな
よりすまるのせうのしたいとむつまくなるふ
しうへて。ゆるゝ帳のうらよりおくゝきて。
こゝろゝ家よりゝとゝてつゝまつり給ことゝ。
いつくゝ稱こゝる紙なくなるやうに給たゝ御ね
をまつり給こゝ。おつしのゝくきみきゝいそのこ
ろゝゆこひさつこゝろ給はれゝゝのこゝろのいさ
しうは。えれこゝろゝゝゝこえきゝかります。

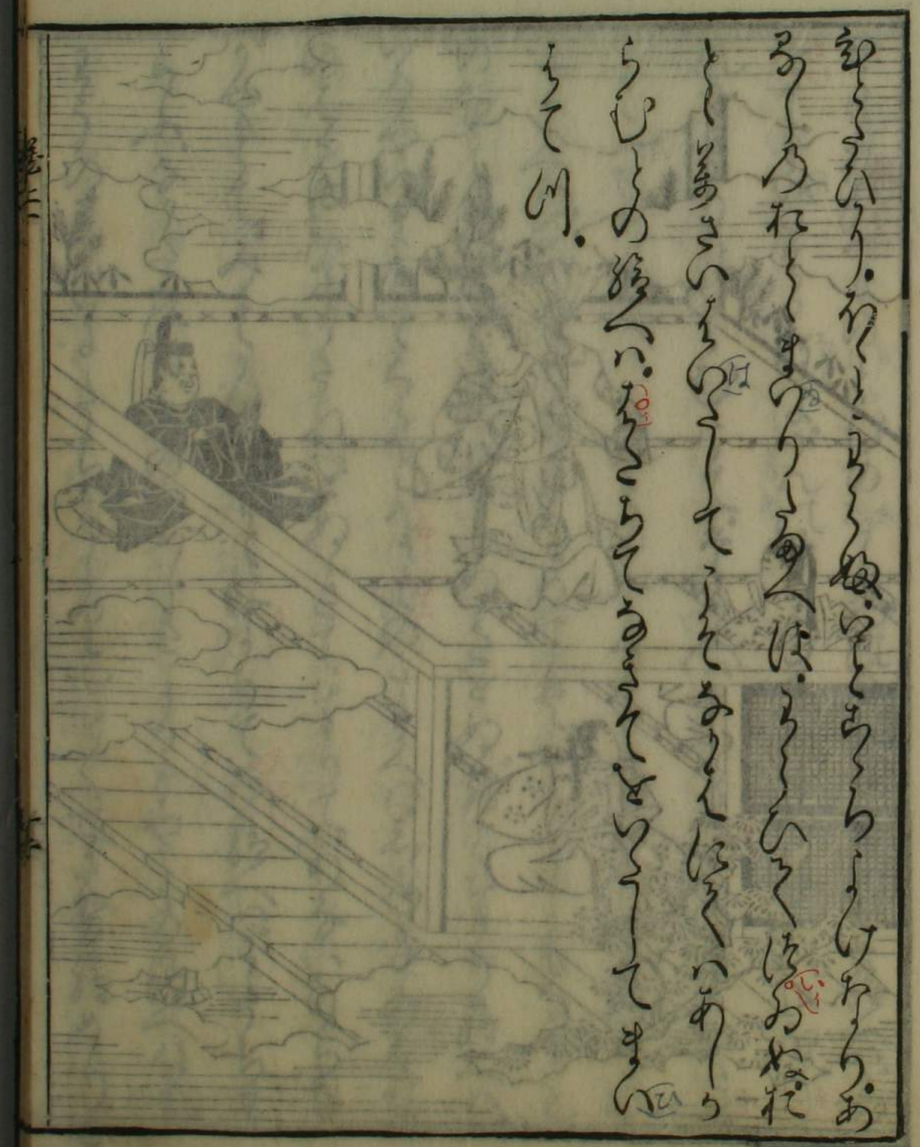
うへノオトゝハ正ヨリノ室ヲ云カ下ノ十七トニ左大將ノうへノオトゝト有

ゝ帳のまへよゆこひきゝて中納言こゝやゝひ給。こゝ
ゝはつゝひゆきゝくゝのかむこゝゝめいこゝすゆむ
あり殿はこゝゝこゝのかむこゝゝめいこゝすゆむ
とゝはしてまゝこゝゝるれい中門とこゝかつゝ。
こゝゝゝゝゝゝよこゝれはゝこゝゝゝゝゝゝ

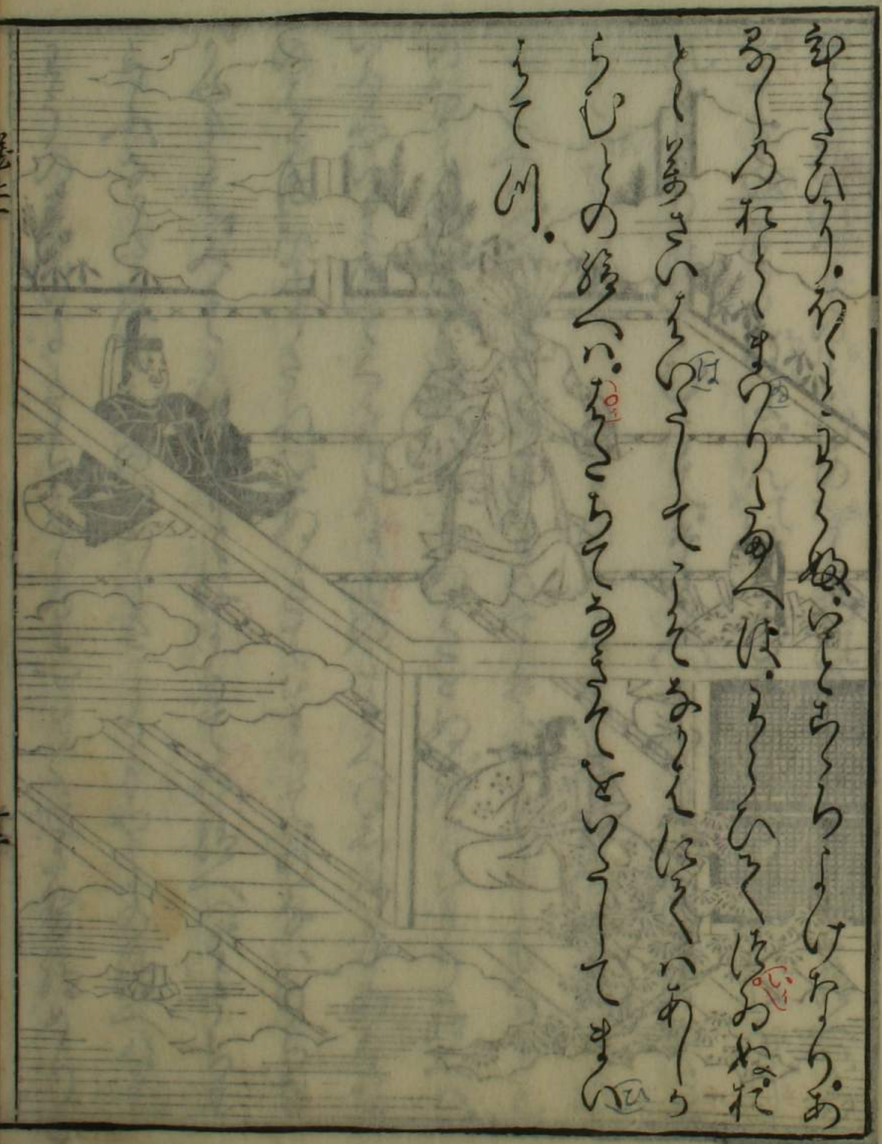
うしの車いつくしてまつりまつり。
中納言いたつきまつりて。えのおつまます御帳
のうらへいれをり給。えをとりて給つるそれ
はいたりねしてこゝろおかりまして。女御の云いな
ようすまるのせうのようにむつまくなるふ
しうへて。御帳のうらよおくしきして。
こゝろ家よりうるとゝてつうまつり給ことう。
いつくあるに稱こゝるに給たるおな
じきまつり給こゝあつしのまくこゝみきちいそのこ
ろゝゆこひさつこゝろ給はれうこゝのうちのいさ
しうは。えれこゝろまくこえきちかりまます。

御帳のまへよゆこひさて中納言こゝろ給。こゝち
ちはつこひゆこうこゝのかむこゝちめいこゝすゆむ
あり殿はこゝうこゝのかむこゝちめいこゝすゆむ
とゝはしてまちこゝるれい中門とこゝおつゆふ
うこゝかぐこゝよこゝれ河ぐこゝりよむまれ給こゝたりよ
なる紙給中納言もゆこゝろこゝて御帳のこゝをこゝ
きあけこゝかゝゆこゝやこゝくこゝこゝきこゝく給へいこゝ人のまこゝく
あゝこゝうゝやゆこゝこゝなこゝこゝて女院のえよゝるれ
給へいこゝりこゝこゝこゝいゝめこゝみ給こゝすこゝこゝゆ
ち女院えこゝりえこゝりまこゝて。さゝぐこゝ給へこゝみきこゝろ
こゝあやのはこゝ紙こゝてみこゝこゝこゝこゝて。ま

左大將ハ嵯雅カ



どひ申すべきよしをのべしきまれてこれ
たりこゝあるべきにはあらず侍りけるとかれやもい
つれとすくやてうしはれしもろこし侍りつ中納言
ゆめたりこゝろにはかりけるとこゝろうみをみ給ふよの
ちれものをいとたつ中納言のふくそこ
とを給へいうのもくるふもしあくそこゝろあ給
へい中納言まむざいくたれくりくまの給ふれみ
こゝくるもひ給へみこゝろをこゝ海ふえよふき
給あるのもくるもくるもこゝ給へいこのみこ中
納言のこゝまひし給るのう左大将こゝ申れいあ
ちさうくこゝ侍あるじはやくこゝ申れこゝ申へい



申こゝ海いこゝ海けこゝうあ
るこゝ乃れくこゝ申へいこゝ海おねた
こゝ海さいこゝ海こゝこゝ海おねた
こゝ海こゝ海給へいこゝ海こゝこゝ海こゝこゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ
こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ海こゝ

ゆくゝ　はいつゝのとむのどうはれるをとうきを給へいろ
まてまちうてる程よりじんれいはやくじゃれうつ寄れれわらぐ
清氏
ひをうり給ゝむしうそ。そうへいさうへのとうやさを
しそへせあまへいこれものみうるろうろうやとの
しまへいづいみうくうるゆをめすれ。やくしもうちを
の命ゝ川よの給へいさゝめうをめぐうくすり給へい
いうやうまかうくうゝかうくのうきへいうつきあうを
のうゝ風ひうくうれとめぐうてすりて。おおいのうる
ぐやうて。みそうけれ。すりてれ。給へいうてみ給へいううて
うふ。なううたれ。ものいうゝさうゝやうの給へいそ
ようのえけよううやくせう給めり

つちいハ土居ゑ下ゑニテニ
ゑ帳ノ外ノツチ井トアニ同シ
ゑ帳ナトニ土居トモノアリ
類聚雑要ノ図ナドニモ
ミユ

ところゆるがうゝ人の母ぐむまれまゝ子ゑ紙いと
こうのうのうのてゐれわそのとうりてこれうまゝと
しくみくうれうさ絵中納言ゑ帳のりくみうりて
はいうてまゝりうゝ人やくうさて絵ゝ人の母くわなさ
うゝやいくくうさふゝうしの絵ゝいうこゑゝとゝいさううさ
てはいうゑりくみくいでゑれうゝれいいこふわさうり
うひまいゐうこうてこゑひうりうゝ角くやうこて
いうくくうてけなるいいこゆわさなうこのうれぐ
まはこて絵うくくうさうゝやわゝむくゝゆりひ
てふこうこうわうさうれうゝ右の母くいて(いてくり)くこて
ようたこうしいぐいまはうくゝみくこてみをな

らこて絵ゆうくいまうくゝもんたうこてうくゝひ絵中納言
のうこううくゝこたまうこていゐのまわうこみゝ絵うう
むうゝのゆくくうらうこうゝいうこうもいうこ角ても
うううのゆうりゆはいうゝやううはううこの絵ゝこ大方ゑん
しゝいうこ絵ゝむこのゆうどれこうこわうゝかうこうこゑ
こゑうこうこうよゐこゝ人のうけうこて絵うこれゐゝ
むうこてゆゝゆうううり人の母くゝ角絵のうこけうこて
うゝ絵ゆくくうのこのうこうこうこにこうゝ母くうり
くくこゝむうこうこうこ絵ゝまいこゝぐくこ三家殿うり
うこうり絵くこうこうこゝこておいこうり三のこゝうり絵て中
納言よこうこ殿うまこれいうこのゆゝ母のくうこうよい

まつうちとをあくるうよへるうぐいすの
たゆひてとゝにこのてをとりあはしを結へる
けさつゝとおらいまつ稀とをくてうぐいす
あそをさゝるやうふひいとこゝろいとゝ侵らうにさて
しきものうゝえあるれはをこゝろのあれ
ゆわくさむしろしゝぐあたゝ稀をるかこゝろむしろひいく
をくゝうもをくてゐぐをさうり著ゆんうくゝる
むをくらゆみこゝうくゝ侵くこゝなりよゝうゝ
しゝゝ侵くいあるむとゆしゝ侵をゝゝるれゝ
かゝしゝけるをぞしゝをゝゝゝあはゝゝゝもだれ
あゝ結つをあるはををゝゝゝ結つをまゝひを

ぬゝく　をゝゝくゝゝ

しつゝをゝあゝゝりてけゝよあゝゝりゝゝゝゝん
ゝけをのをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ侵ゝゝゝゝ中納
をゝゝゝゝゝみゝゝゝゝゝ稀みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝありもゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ式のゝゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゑ。一まおく。トス 紺本四

ゑさまづ〜けるれい。後ゐのりれてまみてさ
そうしめつゝそと思ふ。ものさやこそ。うんの中を
ゆ。後。いまこゝくひ。ゝ。何にうきつゝむとそれ
ゝさづ〜くれいえんをひろれなれてひゝあを
づてゝゆくゝませ給へゝさゝ給へいゝゝる
けみそはゆゝえゝ。ゝゝかゝてゝこめはゝれゝり
ゝゝゝ。ゝゝゝ

双中納言タリ

うちうちにてきこしめしてゆるされぬ
ゆゑ
ゆゑ
みるあをきてれさ
ゆゑ
みあるしのあをくえのはつくつくのえさちくた
れくみたりまへえみるへるぬゆくうみぬら
殿さたちるくくらてらい給中納言はた
よくつ給もあるくくもきてるはちこ
てたくのまくりうくはわくりくくらくれ中
将ゆゑしてゆりんせうそこあるゆくれんれいさ
らうはたくもあるしどくれくのさまいの
せくるくなくをれんくくりるくさくをまい
あるくうひるくもせさをくさをきくいまそ乃

くらるをくえあくくくるをくありけくくのいくれいまい
のくりうるくゆ中納言はたくいゆ給はそう
をくせ給つくくく

うちへてをこりがうちわるくよ。あのうそをいわれいみ
うしうしとみるあをまをもてれを悪しとてつかう
ふ。あるこのあをくえのはいつくうのえをちくた
れくみたりうへえみるへよりぬ。ゆくうみゆら
殿寺をたちるうくうをらてをこの結。中納言殿
ようこの結もあるうこともをもて。ゆ紙ちこ
つたくのまうりうこはわうりうこちうこれ中
将殿してゆりんせうそこあり。ゆうこれへれいを
らうふはうちもあるしどうたこのをまよの
せうるくなうをれんうこちうるうをうをまい
あうちうこひるども。せうをへうをうをうまそ乃

くらうをうえあくくうをうをうをうけうこのいれまい
のうちうるこ。中納言殿ゆりてくいこ結はそう
をうこせ結つ。みうちうちうこへ武部元をゆりむ
つうひをくたうるうへのゆくれりくよはうみへ
つこ。ゆびつうれたどうり。ふうこうのせうをふ
ふをあくでひうこくうりよろをいてあれよゆ
つうこるこ。いゆむはにうけうりうこりのくうも
ゆうをうこうくゆれくしうはくよきうこうをと
て。ゆうやけよるくはうをうてせいこをされ
あゆれうこよいてこふこうをうゆくよそこう
はるうをいこうこやこくそれうれこ紙も

いとよと思ふやうにてのせてあくるれば、すやま
しきさゝゝとそれわれんとこのちゝくるんいう
でわりさうやすとそてくもうるとそゝらとと
つとよとろこまゆゝれさめなるのまてう、うへのやく
みなてはやゝかこまりてうけうあうぬこてよ
さうゝゝあこと、はるゝさゝでれあそむれえうるれまよ
思ふなく伽めつゝくはるんあふのうとなるへゝ彩に
よハ伽ゝ稼とさうやくゝもとろゝまよとゝ結
へてるむさうまくゝあゝ世ほをこて結いるよこれ
うハとゝひろゝへすうゝあうゝやまいり伽ゝぬこと、
ゝふさことゝみあとうねゝゝきゝろゝ伽れる。

つゝうゝゝゝゝゝひ結ゝてゝるんいとうゝこゝさやうを
ゝゝ結そ、ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ結れまゝひ
よろゝるゝいゝゝ結へいゝはなゝんはゝまゝいゝべゝゝ
はうゝねゝれゝゝゝゝのゝ紙ゝのゝゝゝゝゝて、
ゝて結ゝゝり、れゝゝゝけゝゝゝゝゝの伽ゝゝゝゝゝゝ方、
れゝ帳のゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ女法のゝゝれゝゝゝゝ
くれゝゝゝゝゝゝゝゝゝ結、むゝゝよゝゝゝて、ゝゝ
まゝり結、れゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝは
民紀のゝゝ猶のゝゝゝゝゝゝ、いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝむゝすゝゝゝゝ、れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれ

さりけれゆくすのそうそうの見ろえもむろゆよまい
つる結し西行のそけさろうさあやのすしーよひとく
きれれうれうくよくくおやのゆまれはつねのを
みうれむうくゆいうんの世く、じろさはやはうら
うひとうきねおれしきもひとうきねゆいこあまり。
中納言しろきあやのうしうさうくうきねろうあを
うぬさ結くゆひう結屋のうみうらゆみひき
つくゆくすくくて女はのえうれいぐさてさいく
結くれいうむの世くいうれ西行のうけようう
結いまいはゆあむしうてゆうつうくの世くりうく
世はいあ結くれむしくゆまうり結はうしは

かふとソふとのはワメリニテ児ノ産屋ノホトナトニ身ニ
ツブくトシテル物ノ出ヌルヲカニトテカニノヤトテ
ヌルニテ生ンフ〜コニハつき結ノ如トアレハ産ニハアラ
デ他ノ物ヲ物ノ形ヲ司ル トニレカクニレカニトイフ角ヒ
トツナルベシウヤフキアユズノそるノ生レサセ玉ヘル
所ニ産屋海ヘナルユエニ解ノ多クヨリシコトアレハ
是ヨリイデテル名ニヤ

きりのはれゆくそらのけしきもむつかしうゆゑまい
つゝ結ぼれ給へるを見給ふるにあやのすゝしをいとく
きれなれたるをとりかへさせ給へるなりけり
とみたまへばゆかしうおぼしめしたるをのそ
きたまへるにゆゑなんの御ぞ清げにこまやかなら
ずとりなしたるをなほ見まほしうおぼしめ
中納言しろきあやのうちきもひとくさにゆいこめたり
うへのきぬ紅梅のうちきにうすもえのこうちきを
つくしたてまつりたまへるいとをかしうてさてゆく
末たのもしうむつかしきことはなくてよかるべ
きをいまはゆゑあるしるしにもなりぬべ
きをいかゞはなくれしかるべきにこそ

めるをすこしたゞしくぬかせたまへるをいとこゝ
ろにくしとおぼしたるをよ殿はいとゆゑ
ゆゑしくもてなしたまへるかな
ゆかしきことはなくてよかるべ
きをいまはゆゑあるしるしにもなりぬべ
きをいかゞはなくれしかるべきにこそ
中納言いとゆゑ
みたまへるにもみてとりのこゝろもとまるべ
きをかくまでもてなしたまへるをいとこゝ
ろにくしとおぼしたるをよ殿はいとゆゑ
ゆかしきことはなくてよかるべ
きをいまはゆゑあるしるしにもなりぬべ
きをいかゞはなくれしかるべきにこそ
中納言いとゆゑ

しまうでとゝもゝうて世話つゝ、きんすみこそ世話
一海をめれとゝこゆまいみのうういそのちうう
とゝ、うくつくうのまゝとゝもゝむとうやとの話、
さうくはゆとれそてめまいは、女話高いこうまりう
世話せとゝちくゝ世くくそひめ話つれいうゝのたくい
これ話くゝれ帳さこ話ていり話くゝやのれうこ
よみ世なり話ゝ中納言みてのこちゝいり話ゝは、
むの世くゝあるさうれあくゝはなうくうの話ゝ、
あのようかゝ面こやつうゝはうゝつうゝはゝ面けを
こそゆうゝ話つうこそゝてゝつくみれこそ話うねこ女話
のこちくこよいこうつくゝ話ぬ、中納言ひこいも話作くゝね

いこうこうつくうゝ作つこゆうゝ話ゝくこて、
こののれうこうくこうこよ、うくうゝ話ぬうゝのたくくこて
このの世くくあこまりこよ、うくうゝ話ぬうゝのたくくこて
話ゝくくゝ世話ぬ、中納言れゝ世面ゝこくくこてこ
こうやこう、こ面りのまこもうれゝくくこくこみゝ、
あくくこうあこう、うてこくれこゆまゝこくこてゝのの
れゝいくゆこくうこうこみこあうくうれこ、れ話して
ゝこくこ話つこくうこみるこせんくくこよりのまつうな
くくこくくゝこのくくゝゝ世話のこ面れこ
こくくゝこくくゝゝゝゝこのまゝのくくゝゝ世話の面れこ
こうこりやよゝゝまくくこくゝ世話こくこくこの
ここれこくくこうこれ女こくゝゝこうゝ世のゝこれ

右大臣君メソ

左大臣ハ第雅カ

れまいりそめてじんの母くれにつかひしそを
右大臣の君はやがてもの給ふ人の母くのにすとに
ん。やがて十人ばかりそ宮人まづ宮人ありさと
ものいふるものとさもちてまゐり
せしめ給ふくてはうぶやしうのこの三日乃夜いたく
侍給しかばうちのきねの使ひうちねの十二時れしもの
うれ給ふものうれうのうちのうちねうち
ろうれのすれとこれよれそれむけさうれられ
うちうちさ十くうりみく百うんるんるける。
ことり給ふるんく。夜ふとよあそひうちるうち
給又日の夜乃れうさうちまうしまうしまうし夜

氏食 具

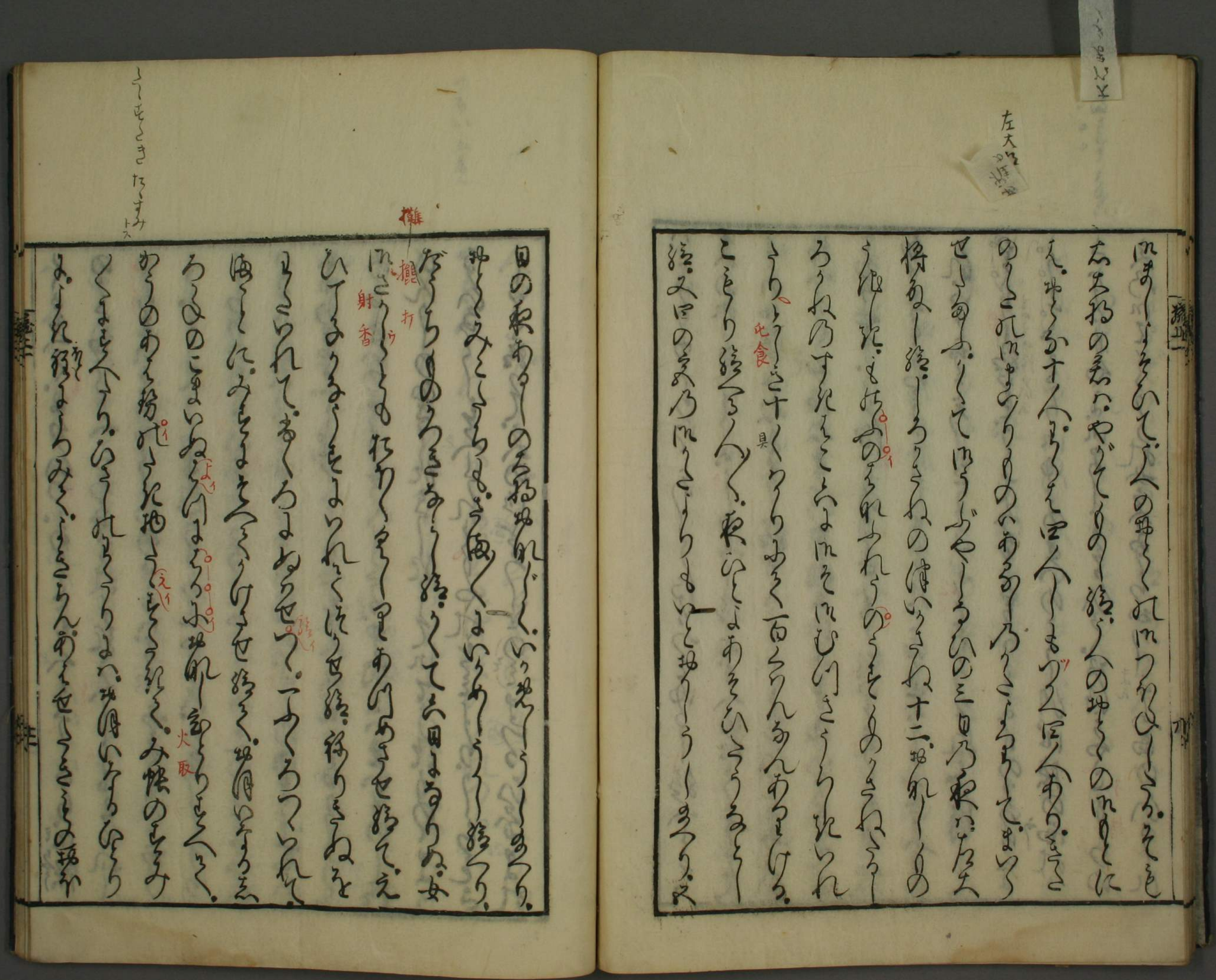
日の夜あるしの宮ばれじくいう給ふしうしまうり。
ゆくうみとうちまうう。うう夜くよいうあううう給うう。
たうちものううきるあうう給うくて六日よりあ女
れさううもれりくうもありあうせ給てえ
ひてよりるうをよりれくはせ給ふりうねを
りうられてあくうろよあるせて。ことうつくられて
海ひれにみうそようきうけうせ給くはいうろえ
うくのこまいあるのよりうれ給ふうりうくう。
めうのあうれのれ地うえうくう。み帳のうみ
くようくうひううれううよいはいうりひうり
よれれ給ふうみくうきうんあうせうきうの給ふ

射香

撥 打

うう宮うきうたうすみ トス

火取



左大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くもとくゆかりいつ。わもとらへもとてうり。四輪
のうとゐるうくゐるうくゐるゐるゐるゐ
うるまいそのゆくくのわうりいよわを みるよらをかう
うい。おてうちゐはうゐみをいをいるゐるゐくうり
うちりのくいるれうるいるるいるみをあうす。ふを
いをうをのれくくよりをうゐるゐくのはり一百い
女れの見ゐ。くれくくうちゐみゐ結物るゐをうく。
みるきいのをうをくしうを中納言い重いるのし結
ひんうのいをうれをうれてれをうれたりのくゆみう
をいるをうをもをうれをうりやれををうり。うらをさ
しいく結うて。ふをのはをうをとのをまつうひるまれ

人をうをゆをうりいをうをれはれをうをよをうら
やをゆみられを見おをうを結ゆ見い御帳のをれつうのう
をうをうをいれをうり結をうりうをい御門ゐをう
ゆをうをうつ結をうくのをこをよをむをうゆをしをゆをうを
いをゆみをうり。七日ゆみをうりて。女れをゆみをうを結。夕ゆ
をうりいれゆをゆをうをうを結ゆれをうりをうをひをを
ゆをうを結ゆれゆをうをれをうり。ゆを女一宮
をうをうをうをゆをうをれをうをうて。はゆをうのをうれをうをゆを
ゆをうりをう。東山をはゆををう。女れのをうをゆをうむの御をく。
をうをうりをうをゆをうをうを結。いをゆをはをうをうりをうけをて。
はゆをくをうをうりをうをれはゆをうをうをいをうのをうけを

のめれとくにうまれつきは
るやうれいるものを。女はの
うとみ〳〵ねにうまれ
さわやかさけうしやうにて
られいわりうくそうそ
あくうふめぐこと。こ
しのをみ給つれとい
けりのやうふおつまる

うらはやくうつりかたちもとて猶二年いるくらり
のうち、こついうくれのうんの秋をまつすこらんれく。を
はるれくうきよをもてへて、そろうよのうちで二くらり
つくうくみくくうこのうち紙をくゆいうくうま
へのはうくうくよつゆくだけくつけくをくうり
アラ宮
しくくうをれはるかのうのうりうもしをくれ松のえ
くうをくをくをく

りうとよをうらんしのぶ（ら）ものうらんしうられ
ぶかうとしをよをうくれ（くれ）ぬるとしをあはれ
うをみうらぶとしあはれぬへうじをうらいとうをうと
をまうらうをめをうくうすしうをうをうへつ（ほう）君
みをうくうらうをうて（ひをうくみをうへさつをつをて
ようしをくをうをうを（ハセ）をうをうれこのけを
へをうをうをうをうじをうをうをけをうをうをうをうを
つをうをうをけをうをけをうをてをうをうをてをうをつをみ
をうをおをうれをじをうをうをうをうれをうをうれ
ゆをうをてをうをけをうをてをうをうをうをうをうれ
をけをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

紙をうをうをうをうをうをうをけをうれいをうん（ほ）ををうを
をうをみをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをじ（きう）雅（れ）をうをうをみをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを
をうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうをうを

よつみくやりうきのみちよつく えみくるゝと
のさまへ さそみ給へ 仲忠室 かりうえるとていさせ
つまいゝ給てせくくえみ給つて 女御の君い
とくくなり女のさうそくゆくり給へ こゝろ
くくせり給へ これ給へ 西のたいゝ みと
せさなりて そこのはつかしみをの給へとそを
ゆ給へいとのいく給へくくつけ給 そけの君ゆて
くくてまつり給へ 中納言 仲忠 なりうつり給へ
くりもせくみ給へくくあり給へくくちなや
一ゆい給へりうゝいとくくれくくまて きくみい
出給へ ひつくくとよい給へ ゆいくくのこゝれた

みしくさくくゝ一ゆりゝ給へ ゆらんのゆりをつくりく
いれ 一ゆはくくんをくくゝ とくくくくくりて一ゆりゝ云
ゆ給へくくさくくとのみくくさくくのくくくくゝ
つくのゆりくやうくくりゝ一ゆりゝ給へ ゆゝみそ
とくくつけてゆりゝくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ
いなくくてくくゆるくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ
ゆりゝゆゝ ゆくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ
ゆくくゝゆゝはくくれくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ
くくくくみくくくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ
ゆ殿くゝいくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ
ゆ給のくゝゆくくみ給へ ゆくくゝ ゆくくゝ ゆくくゝ

ゆゑよしのまつりごとも。世ゆゑのまつりごとや
どころよりくしの中納言殿の。仲忠宣
こゝろにくしの。やうにもあり。
こゝろにくしの。ものゝつかひ。
しかるべきかたの。仲忠宣
つかうまつりとのゝうちよりみかどのあり。あるべきかたは
あるべきかたにてひとのよいかたちの。
あるべきのまり地をもいよいよ。一りの行ひ
さ。一しの行ひにうつりこそいとをかしけれ。
しきりにうつりこそたうくれて。ゆとれのとをとれ
いとをかしてうつりはて。女院の君たちよりはんの花
しきゆゑのこさうつさよ。とをてうれつうつりこそ

とふいとをかしうなるをとりんのみうこうのいとこ
ろうしのようにけのものの女のうちそひてこそ
うつくしうをかしけれ。十具
けりうれく物あるをつり。いとをかしうのこゝろひの
けいはうしうをかしてうれてこうこうられをみ物
こゝろうしてこそ。みたのの殿のうちも。そこをみ
りのれまんの物いとをかしこゝろ。武部の殿
ものの殿のうちも。武部の殿
うの中くの前のこゝはけうこうて。ゆうとり机
つこうこうあるこうの中くのこゝろあるの。ちりんの仏
左大将殿ものの殿のうちは。ものはかりをり。こゝひいとをかしう

みるるひ　るみぬれト注ス

源中納云　涼丸

そくしく（シク）ゆくさいもくうらくともそうりおそしー
しるひ　ゆれかすて（ナシテ）ゆくうくしゃんへく沸沸せそ沸ん
そそそて結てれいかみ　みなかつ（みなかつ）きゆれかそれそれそ
おゆそうてみるなへ（ヒト）のまつてこのれゆんくそれそれもみ
か源中納云厳しく結てり　いてそそそうそうみくまつ（ま）
つそ結みさそうのそ（モ）きまつりて　中つそうそひと
れそそれゆそれそうり　或ひのえよいさそういろそう
をそひ　それそうそいのそうよいわてぐらのみく
そそひつの文源中納云のみよて（子）　そうそそそそそ
みうしそうそ（ソ）のいまんゆうて（ヒト）よいみくし　中納云　それそう

草鞋

吐

かひ（ヒイ）ゆうそ結そひ　ら（セイ）中ねのあそひ（ヒイ）そ（ヒイ）されそ多を
そそく　みかそいそくみそく　いしそ結ゆうし　それもそ
のみそれんそそ　いてそうひかそひそてもさかれ
しゃまさそうゆのそ　そそもいまのそうもそそく
そうつそうて　さくそそうのそそくそ結ゆいく
みそう　ひそひつそれ　ゆそれそのそむしたま
そそそんゆそそ　いそるそ結ひそて　かそへう
そうそ　ゆそひつのゆそくそそうそうそ　ゆ　いそゆ
そうつひ　ゆそそう結そ　そうそむしそ　さいろ比
ゆそそんそそのそそとゆそそそそそねいみそそう
えひそそんそ　そのゆそくそゆ結そそむ　そく

掩綰

禄

而鍋

腔

走

筋

実忠

春宮

フケツホ

みるるひ　るみぬるゝト注ス

涼

草鞋

吐

共

子

童荷

掩

綰

禄

雨鶏

脛

走

筋

実忠

春宮

フケツホ

うさとしのあまたさてくまてうつくしきはいとゆか
しうのそうほうしのはくいてこしひとこしひちはと
ちこはうこてれあそこひ給ひと成ぶつのえさう
の姫さたのゆく中務のえよわこむ者ぶつのえ
さうのうえ中納えこと山えゑ権中納ええ山ちぶ乱
とあこせくあそこすす藤中納えいうここうやう
なりうつけとりてはうそんとて しちん迎れを
是物のさしめこゆめ物のるしこと文のるしこあ
やのえ移りこねてあ給この比まのちまこ記
こうりやうりおくこるひりいてるくこちこひこ
て ふらけとりてあ給 者ぶつのえわるふつこや

のみしくこと こつくこ こりこ 三てうはるかれそ
見給ふ見てこれゆえ このもり給 さこたるむるこれ
このひこ 磨 ちの源中納 涼 このそりといひ
しこと今いいここ こるし中納えの成ぶつのえり
れうこけまつり給 こやけちこみこのさこ 三度 拙
ここ毎ふ こく
かわ伝いいけのたのひこるやこるれいこけを
すけよみあるこひこる中納え 仲忠
いこやここけいこ こを毎ふ伝いこ こく
あ乱気ここそれ中務のえ
ここくこ こけよこやこのここひを

ゐまくたのよ姫れ　参議の女
　　伝授くらくらもれみて紫ふうれのうく
乃こゆりの風〳〵まそて　たれゆく　忠雅
　　あこ紫ゆりの風〳〵あれいるこゆい
まそて　ちよ　あいを紅ゐん　藤大納言
　　いくのうくよそうゆくたいそのれくいうこ
分をあうとうたみむ　たのゆく　正頼
　　とうれいうられ雲いたのれるこゆれん
風を　俊　まうてうしうゆ　兼雅
　　むうそのまれゆうゆゐのあういまこみ
ゆうこのにのゆうゆうさうか民部卿　源實雅

わうみゆうゆう紫よみゆうゆゐのあうし
吹ゆれゆゆみそうう　年中納言　正明
　　ゆゆのまれゆをくゆうれみうせうれのう
ゆう紫よみゆうゆうゆい　源中納言　涼
　　ゆれ伝いくやゆうゆゆをうのやゆうゆい
ゆうれゆうゆうゆうん　權中納言　忠純
　　みゆうこのゆゆうゆうゆう紫ゆうゆれ
うゆゆ代ゆうゆ紫ゆれうれゆれれあれと
うゆゆのうゆうゆ兼雅のゆうゆれゆうとゆい
ゆうれいいたゆゆれ　はうとゆい
とゆゆまんゆゆいゆゆ　輔重　真至　ゆうゆうゆゆゆうゆ

こせむのつくりくろあるいとものとと
をさ〻しつくもたるものをさてつぶとさひり
くりのく祢よあくせくそれくもすかたとこ三
の文くろ(ら)うなくろの祢りくるれたるさの
うめるさゆるしまる(ほ)祢しをうるうさ祢(の)うるうさ祢
つてくろくるとりて中勢の文よまり祢れさ海
しけそひやうみもさうさのうるいとよりいやうる
長聲
分りてゐしいと公めくて中つるの文よまり
祢ゐつるさ深(ぶんぶく)ろうやとゆれしけるしゆさいゆり
ちてけりすちるひくるうりまり祢られを或りて
の文ゐれゆるくいとめてるうれるひとよちと

ゆ海して たゆるくみさうみよせひとさうのるるいく
ゆりしゆくるいへうるちゆ或りて文よれもゆ海を
てるれいいとゆりしくるるりゆらみく
み祢中勢の文ゆりつるゆとりてゆまりゐれお
るくよまつり祢みとい ゆりるのゆさ祢りを
よゆさ祢ゆくてれるくるゆるたに
るくるうるゆりうれをのるるのてさせ祢
て るゆ(た)ゆ(て)やいやみ祢ゐんするるの祢へい源中納言(涼)
ゆるりてまの祢るゆゆりうるゆりに四
の文ゆるくるうるゆゆるゆりゆるくるるゆを
ひのうゆゆれゆるゆりる祢(ほ)るゆゆりるれるさ

稀なりて、うつゝあるとりて、ものゝ文よまゝつり
給へるいと世のやうみあつくゝみこえ給つゝ、
文句くゝのくしをとゝすゝ、これもさうゝ給へ
つゝ給てまいり給つゝ、源中納言よ給とり給て、
作
けくゝうのみまつり給、えいつくゝくづき給られを
くゝめそやすゝるゝ、ゝ女二宮のゆくゝこのゝむの
まいりゝつゝくゝむゝ、あゝひてゝうゝゝをもあ
只
さまゝくゝのゝとりやせゝむゝとの給へはれたゝのゝ
太郎
御ゝゝて、雅楽とゝいゝ自ゝ、くゝゆゝゝゝ
くゝゝたゝのゆゝ方ゝいらくゝひゝとゝのゝりてんなり
ゝゝよいゝくゝまけゝゝのいゝゝとゝいよみくゝしゝとゝ給、

同ミ一本 ほゝトス 絆ヵ

ゝゝくゝれゝゝゝのゝいゝ給ゝゝとゝれひゝとゝくゝねゝさ
ゝゝゝゝのゆゝゝゝゝ

四ノ上ニ十ヲ脱セルカ

のはてさてまつりたのゆくさ
うゝあまつり給ふ紙みれいとあてよろひぬ
てのよ云をすさゝ給ふ十七たのれ
ゝうけらすゆりくるれうゝ給ふてゝ
さうゝゆゝの給ふうゝ給ふあさゝまゝいつる宰
ねよゝうふ給ふてゝきまつりあくるたゝふ給ふ
のうみゝひきさいこれすゝぬてとてらねそとう
のゝゝをうゝさうゝ給ふよ左近のゆくうゝ
うくをいゝをゝ左近のあくうゝゆうをあくそれ
あゝをゝ給ふまてゝそれいとうゝもゆれうゝう
ゝふよゝやうねくこのゆくゝそれゝゝいく給

ゆゝよ如月のゝ給ふゝゝゆゝれゝゆゝ十れみ
ゝはゝうゝみくれゝうゝゝゝうゝけうてゝうくゝ
うゝげよゝくれそゝあれあゝうゝゝあゝせゝ
うゝたゝれゝけゝみくゝえゝうゝのゝゝのゝ給ふゝそ
うゝゝゝゝまゝゝゝくゝ給ふゆゝうゝたゝくゝゝふゝさ
ゝ給ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ左大将のゝさふ
ゆゝてゝゝゝ給ふゝゝ給ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝ給ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝみ給ふゝ女れの君
ゝゝゝ
ゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のけてさくらのえだにまつりてたのゆくすえ
うつくしきまつり給ひ紙みれいとあてよろこひ給ふ
てのよろこびもなさうに給ふ十七たのれ
ちうけりすゆりくるれうゆるしてそ
さくらゆきの給ふとうに給ふあさしまのいつる宰
相よりふ給ふてやうさまつりのくるかたふたる
のうみうひちさいこれすゆめてとうらゑそとり
のまつのをうつくしさくらうゆ給ふ右近のゆくもちく
うとうとうとたる近のあくらうゆうをあうそれ
あうをとれ給ふるてとれいとうもはれうりく
まつよりやうねくこのゆくうそはまつのいく給

ちうよ如月のたはれ
こはくうりみくれうゆ給ふてしうくり
うけよりくれそなれあやうくうさあうせろう
うたをれうけみうえいうめのうのうたうて
うつくしまとまくいく給ふりたくはふうさ
ら雅よりくとふうてて左大将のはさふ
ゆうてうり給ふいはゆてうれてうて
うりうくうり給ふくうつくしまとみ給ふ女はの君
のはてみく
ゆうよりんひうてうけうけうけのまよく
みゆうらせあふたうとまつのうもめてうく

うさぎうり・大将いとめつ〻くこゝろてさせあま
つとゝいふよこれれてとみるうれいみ〻うゝふ
くもたりよさうのれとみ給・あうれよひうゝみのか
ぬれと(はイ)濡(うゝさ)とゆうあ〻うれと・うゝみうれて・あ
ゝうよさ〻いれ給へいるこれ(こイ)みしかう(カイ)ゝいれて(てイ)くま
いれとゝそうう〻いの給つれて・そゝとゝう〻ま〻い
くゝみ給うて・ゝさるけうゝいゆゝ(ゆ)し・これ(こイ)そ
墨附
ゝうゝれゝて・れ給くゝ・ゝうたりゝ〻ゝ給れ
いゝう(ゆ)給へいゝ〻くまいゝるゝゝをゝ(ゝと)ゆさめゝれあう
とさうれゝうゝふ・ゝうゝえやゝゝさうゝ〻くれ(オホ)にてこい
林
ゝさゝゆ給ふ・ゆゝりゝやゝゝゝまゝと・いゝ(ゝみイ)くゝゝう

ゝさくまり給ゝり給ゝり給へあをいうれゝうゝ〻く
ゝゆゝゝり給・ゝり給てゝてゝむのゝゝいれま
さの女将(ゝゝゝゝ)のうれつく・れゝゝゝゝゝさゝゝぬや
ゝりて・ゝそ(たイ)ゝゝゝり給くゝ月むてゝ花のゝゝ
ゝゝゝゆゝゝゝゝゝゝゝ給・あゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝはゝゝ(ゝ)ゝふゝくゝみゝゝむゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぬ・たれゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ馬(ゝゝゝゝゝ)の・いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝむ・ゝゝゝゝゝれ給ゝよ・ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝむ・ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はさくもそやまこゝや中納言の文をしうかきのみち
れいうくゝりこゝろとゝいはゝけしやらくれを
とゝろやまりつけこの絵をもちこよ殿上人のうへい絵
つり。歌ゝ文いまはみをのゝちゝるゝれのれうい
らゝ絵つくゝるやうのいろくさされこそいとゝ
べりけもゝたのゝゝゝ忠雅ゝねとみゆゝ絵くゝ
こゝれまゝくゝや中納言の文ゝゝゝの絵つくるゝ。ゝよ
をあゝゝを。ゝゝゝゝ文さいりたゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ。ゝゝゝゝれゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

みるへ三位中将よりいとこうちうちひとこと
さねかうせのうち海一そ。さねは信あ信よは
しうきうちうさ日とうれ。ち信よいひとへうる。
ちうちう。しもつへよいうちあとのもいとを
うくてはるとう一れれあそいいやみくつうきく
のあつ唐楽うくしにくくさて孔雀つるをきそせて
は後せうた。みちれうふと。みをちうさ四うさみ結。
うちうるとこうねをかう桂子ちいさ
さしうねのいをふ魚二ちれをかいあへ。ちれはつうや
うのえとり結く。こうひとうとつ結みうもねへと
もういくまふうしうう。くうようれれそ

うちうつ鶴みはしうう
うねいく。うけうもふ泥くてみをいうくい乃
うとあいて。はをさううさ面ううれうりひつ
は。はうくよおつちうさひをのくはうもはを
の人くうのうつ如雪くいう結。おうーのちくれは
つうよみしくはりくうちうつう結。たねよ
うりいてうう結へ中油そうりうう結よあい
て。みーのはううよりん玉くうて。けうとうて。
人ちいくしいて催馬楽酒飲うて。
ゆううれい。女宮ううさうようて。いうう
まいぬ

中納言ゆうかうして、えのうちのやまひみ給ふとて、仲忠
のうらうをはけて、仲忠室
のやうれこりうねいみうとて、引出でたり。
くうちいうさるのものとんにおさうかさるをつ
いまこみうて日くうち市給ぬ。人のあくも大
將のうとうりまううもむうて、れつわ給へれ
うぬ、えのれやれうこるいしのうけうそれ。うう
くうりうりをみうて、うう毎作帳のうちよい
うそめたうくもうううたあるをけううりみるを
ゆりてよいうかくうつうるみまうり、えうちれうう
あうりていうくまう給まうとうちか

烏帽子

近衛

権

淺香

鏡

内

醉

仲忠

アテ宮

アテ宮

くやしそ。いとくやしそうにてとあるれうちみを
あるべくめづらしくおぼしの心ばくよはるとも
ふうそうれはうて。うをそ海ちうみそ。いけを
うゐくはいまくうけうれさてられいをもわを
月さうちなうんうてるじ。みくうにみはつうけむ。
いつれなるとうじとちうさうとやう一うねうり。いと
めづらくうれまつう。三のえうう給へ。このれてや
そこのれてをまそうしよ人も思うれられてこ
こよるうあるう。うありあていんえをみをなら
みうやんうりの給つうとみもういつくもはう
まう。女れのうみうあるのあうまうこうとうれ

道日とハこゝのゝ遊ヤ

つてあううあ。えさうくやとえいとえよおうせ給
とを。ことうはくくおつとれ。まうとういうす。
うみいくこのとはちせ給。女法のうこうちうひ
給へ。あやしの風うこうやふうくかおうせそ。四
うちおうてれいつそりの世月うしひうれ五こと
えうこと掛して。おううせしたえうちいくてやこ
すひとすう。四うくさひしうちうんをえあうやうせ
をいちうしみをあうるひうすやそれいをいうり
てうちうあ。女れのうはつうやうをのみはあるこへして
とうを給。けふはえうくのうしるまくまうやむ
つうとうちむりうを給へいうやうつうを左右

道日とハこゝのゝ遊ヤ

ちゝくてゐうしとうち給へく。わの方こゝろよこそ。女院の
いくかをもとる。いく人もみしらねいらくあるとしろと
そうあるゝ。中納言いとあるれ。
やひうらうとうり。みあるゝ人さとこそ。人りはら
を。わの方こゝをあもさつうりたうまをやうしみと
のいみしくくとれうし給へく。この比もくまり給は
ものこゝをいくあうはをとれいあれ。中こそ
とをそいうこみ給へむ。よそ人世くまうこし
りのふをよ一人ようこあうをうこうろ
物のこれといひうこゝをいみ給らあいまこよう
らうみはれみのこあぬうこうてみくなり給へ中納言

の中こうくゝ少せうる。わの方げゐこゝをいうし
や。はれ〳〵所の殿上人のこゝあうこゝあうこゝ給へ
いえこうくいあくこそのこよんこうゝあこと
つうるこあうこれ。こうこうけもあこむ
くゝこうこうこゝみこうこ。あこ。あ市給へう。
女院のこゝあれをうこて。はうれよこゝあこうこ
くゝりのこうれこの給へいまこうこて。はこいこうひこう
とこゝゆこいゝ中納言なこうれあうこいこうまこ。
こうこをこそまこうこれこのこそ。はこ給こそこ
こうこゝこゝあまこいゝ。女れの表こひあうこ人こそあゝし
これ。人のをこうこゝこゝこゝいこうこりのをこゝ

ちゝくておうしとうち給へ。われの方これ[illegible]よりそ。女院。
いくかうちとる。いとゝ人もみ[illegible]れいとくあるとゝろ
そうあるに。はゝくうあうこそとゝ人。中納言いとあうれ[illegible]
ものいうとうとう。みあるるむ人さとゝ[illegible]ゝ人ゝうち
を。われの方うをあるも。さううれうまをやうし。みゝと
のいみしくくうれうゝ給へ。このはもくまゝり給ぬ
ものゝうをいくあうれいあうれ。ゆゝうを
うとうをいうゝみ給へむ。ゝ人ゝ[illegible]くもうゝうし
りうゝみをよ。ゝ人ゝうをあうゝうをあうをうゝうゝ
物のうれゝいうゝうゝをいみ給へうあいゝうをよう
うゝうゝみうれゝみのうをあうゝうゝうゝみゝうり給へ中納言

の中ゝうゝうゝをあうゝ。われの方けはこあうゝうゝ
や。はれゝ所の殿上人のうゝあうゝみうゝうは
いえゝうゝいあうゝうゝうゝのうゝうゝうゝ
うゝうゝあうれゝ[illegible]うゝうゝをうゝうゝけもあうゝ
ゝゝ。うゝうゝうゝみうゝうゝ給へ。女院の
女院のあはれをうゝて。はうれゝうゝうゝ
ゝ。りのうゝうれうの給へいまうゝうゝうゝ
うゝうゝゆゝいゝ中納言うゝうゝうゝ
うゝうをうゝうゝうゝうゝうゝうゝ給へうゝ
うゝうゝうゝうゝいゝ女院のあはれをひあうゝ人ゝうゝあゝ
うれ。人のをうゝうゝうゝいうゝのうゝ

の給そのゆうれぬうちとあるあはしろく中納言
仲忠
うれはるゝ之日うちのまへ人くいみしうもとゝ
ゆうろうそてあやしくてあるけうとみそ物いそ
くまゝ〻そくくてその日八日たうねくはう
まろ〻人のひゆくさよその日つうもさゝあ
てゝくれうれうのまうをしてゝうちのうれ
うもとのけまうみとまうけよこのうちみもうけ
ゝうちうの物はけ物の給ふあ人のうく給
くてゝうくいあうねとまうをうゝうちうつさうむ
の給ゝれけうしいてゝふねうのけそれこそちき
清氏
尚侍
みとまりうくうゝうう給つう安れの恵もうくあつ海

しうう之ゆもうてれうけ給ひてのうう
よゆうもうてれうねもうをれうをのこ
みをれゆうしうれうりゆのみをみうて物帳をそ
てうそうう物ゆえのうゝうれゆうくれとこ
ら世給ゆんやゝうてうそれいゆくれうれうう
仲忠
ううちまいのうしゆうう殿のうゝひうう中納言よ
つとううゆてみるゆうた太のゆうく三条ねよおうう
ゆうをんやいゝはうう給れうゝひをうゝてゝむうう
しゝてゝのれううよゆせううゝうこうまいゝ物ねれ
つううゝうこゆうてうゝうよられうりつゝ給れうう
中納言のゆううせゆうつうゝれせんのうとうるうかま

たいかさよふろくえ
たふハコノトコロ脱アラン
ト紺本ニヨリ

いりぬ。えのはせんよりのやくなりのはいうこれよりろ
くさよりうめのつたうくハかりのつうさみとしもとくく
まりうこうろうのうもたくくこあるめり。あれのうこ
うんのゆくゆくいちしのをくこうきこはくゆくこうこうこうこうよハ
せしうこうのをゆくまくよつてまつれうこのこよ中納そ
りの給それはまくよいとこうこのはくあうこうんこうこ
めよハこうこうこうこいひとはまつまうこうれいこひ
こうこ辰のちぎんをこうこうのうこうなつとおうこうこ
ゆくいりこうこの中納えのくゆくこうこやこうこれをこうこ
みくこうまこうこうもはくこうこ中納えハこうこひくこを
まこおくこうこのはくこゆゆをこうこみくこうこうこいれ給

招

仲忠ノ妹他巻ニサカスヘシ

忠純

析植

安

中菖

ほいかさよふろくえ
たふハコノトコロ脱アラン
ト紺本ニヨリ

いりぬ。えのほせんよりのやくなりのほかうこれよりろ
くさよりうめのつたぐ（伝ハ）くれ（ハ）ぬりのつくさみとしもとくく
まりりこりうこりのみのこりもとをくこをあり。あれのここ
うんのゆくゆ（ふ）いちしのをくこさこほくゆくここをこりよハ
（清年）
ほしうこのをほれまくよつ（六）てまつれうこのこよ中納そ
りの結それほまくよいとこりこのほくあようんこり
ゆよハニこりこふいひこりはきつまりこりこれいこひ
こりこ反のちぎんをこりのこりなつとおこりろ
ゆくいりこの中納えの結こくやこれをこりこ
みくうまこりもはくこ（七）中納えハこりひくを
まほおこりこのはくゆ（九）をこりみくこりこしこれ結
（祝）

てこりくゆくこより結くハいこりやゆこりつれよの結おこく
のゆくこりこりこりみのあこ（忠）ひまこりこハ結ゆこりつれ
しの結くハニ而おこくこりてお結おこりこれおう
ちのこさこハのえこりこ。まこのこりこりこのほハこれ十
二。ゆこ中りんつこみせこりこりこりやのゆハこ
ゆ（ヒ）ハほくみくこりみのゆ（ヒ）て中納えのれこりよ。
（折植）
れせこりここりてこりこりこ。ゆこえこりこりこひ結中納
えこのこりこりこりこのもこりこ一ゆこりこれこりこのこりあ
こりれよ。ゆこれよハみ（密）ち。ひこりれよハあまづこりれく。
こハみこりこりこりゆハいくこ（中葛）みこりこりこ二ここりれし
ろこりこのこ（ヒ）ハこりこりやこりこりこりこりこりこりこりみち

てと一本とトス

のはらうえさうろけうとうん弟りの兄はうやうる
ふゆうろうさはよ。ちうろのせよひとをうくうり
ちうりををひかりのやうみるして一をうてうどん
をこうりのやうよはうりうして。ひとをうてうろとり
のひをこれあいやくあをれすやう一をるつをそ
ひくゆいうり。みるん文いうれひうこれのうとやう一
うこねうつこてちかんのはうりえうこよはあく中納
えみ給へいかりつうるうこまてなりよけうをるひのさ
しううまんぬ紙あやしくこうつようて世うるひこ
とうりかうやうこてというけうあうりうとやこの
とうりい

ひうこれの弟へのゆうりをえうよりまれて
うをまうあはうれ。うこてうけうこあうまし
うはえうこうをはうをあまりこのをとうこうえ結
あうり